

I 調査結果の概要

1 漁業・養殖業生産量

令和5年の我が国の漁業・養殖業の生産量*は382万9,822 tで、前年に比べ8万7,134 t（2.2％）減少した。

このうち、海面漁業の漁獲量は292万6,405 tで、前年に比べ2万4,596 t（0.8％）減少した。

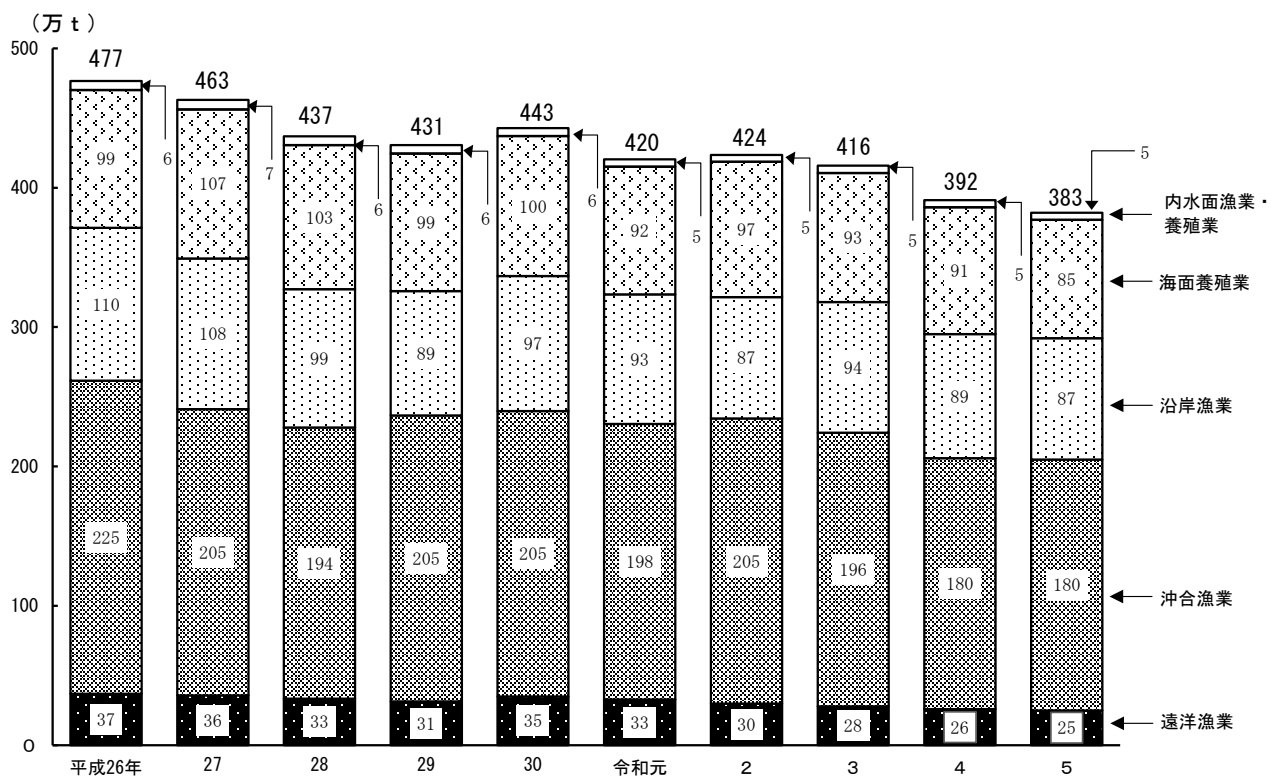
これを部門別にみると、遠洋漁業は25万4,329 tで、前年に比べ7,409 t（2.8％）減少、沖合漁業は180万742 tで、前年に比べ2,943 t（0.2％）減少、沿岸漁業は87万1,334 tで、前年に比べ1万4,245 t（1.6％）減少した。

また、海面養殖業の収穫量は85万1,509 tで、前年に比べ6万330 t（6.6％）減少した。

内水面漁業・養殖業の生産量は5万1,908 tで、前年に比べ2,207 t（4.1％）減少した。

※ 生産量は漁獲量と収穫量の合計値である。

図1 漁業・養殖業生産量の推移



注：表示単位で四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある（以下同じ。）。

2 海面漁業

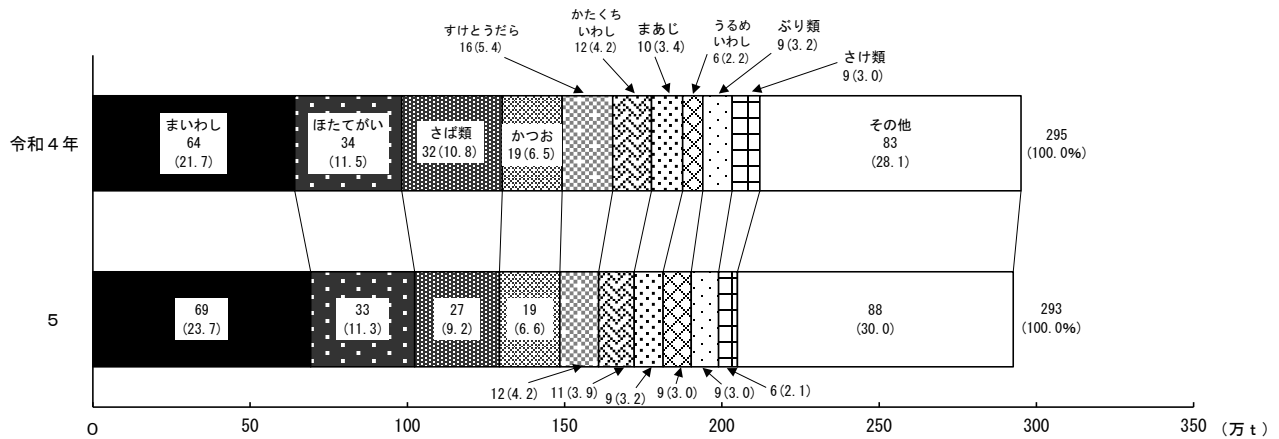
海面漁業の漁獲量は292万6,405 t で、前年に比べ2万4,596 t（0.8%）減少した。

主要魚種別漁獲量

海面漁業の魚種のうち、漁獲量が前年に比べて増加した主な魚種は、まいわし、かつお、うるめいわしであり、減少した主な魚種は、ほたてがい、さば類、すけとうだら、かたくちいわし、まあじ、ぶり類、さけ類であった。

この結果、海面漁業の漁獲量に占める主要魚種の割合は、まいわしが23.7%、ほたてがい11.3%、さば類が9.2%、かつおが6.6%、すけとうだらが4.2%、かたくちいわしが3.9%、まあじが3.2%、うるめいわしが3.0%、ぶり類が3.0%、さけ類が2.1%となった。

図2 海面漁業主要魚種別漁獲量



(1) まいわし

漁獲量は69万2,699 t で、前年に比べ5万902 t（7.9%）増加した。

これは、北海道等で増加したためである。

(2) ほたてがい

漁獲量は33万592 t で、前年に比べ9,448 t（2.8%）減少した。

(3) さば類

漁獲量は26万9,636 t で、前年に比べ5万108 t（15.7%）減少した。

これは、茨城県、三重県等で減少したためである。

(4) かつお

漁獲量は19万2,219 t で、前年に比べ1,560 t（0.8%）増加した。

(5) すけとうだら

漁獲量は12万3,011 t で、前年に比べて3万7,417 t（23.3%）減少した。

これは、北海道、宮城県等で減少したためである。

(6) かたくちいわし

漁獲量は11万2,867 tで、前年に比べ1万374 t (8.4%) 減少した。

これは、三重県等で減少したためである。

(7) まあじ

漁獲量は9万2,280 tで、前年に比べ7,015 t (7.1%) 減少した。

これは、長崎県等で減少したためである。

(8) うるめいわし

漁獲量は8万8,973 tで、前年に比べ2万4,716 t (38.5%) 増加した。

これは、長崎県、愛媛県等で増加したためである。

(9) ぶり類

漁獲量は8万7,184 tで、前年に比べ5,928 t (6.4%) 減少した。

これは、千葉県等で減少したためである。

(10) さけ類

漁獲量は6万154 tで、前年に比べ2万7,751 t (31.6%) 減少した。

これは、北海道、青森県等で減少したためである。

図3 海面漁業主要魚種別漁獲量の推移
(令和5年における上位1位～5位)

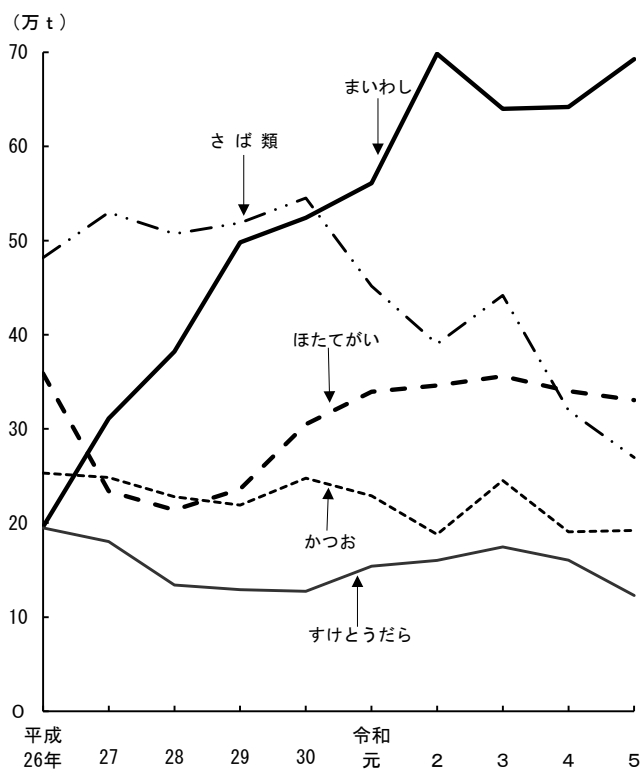
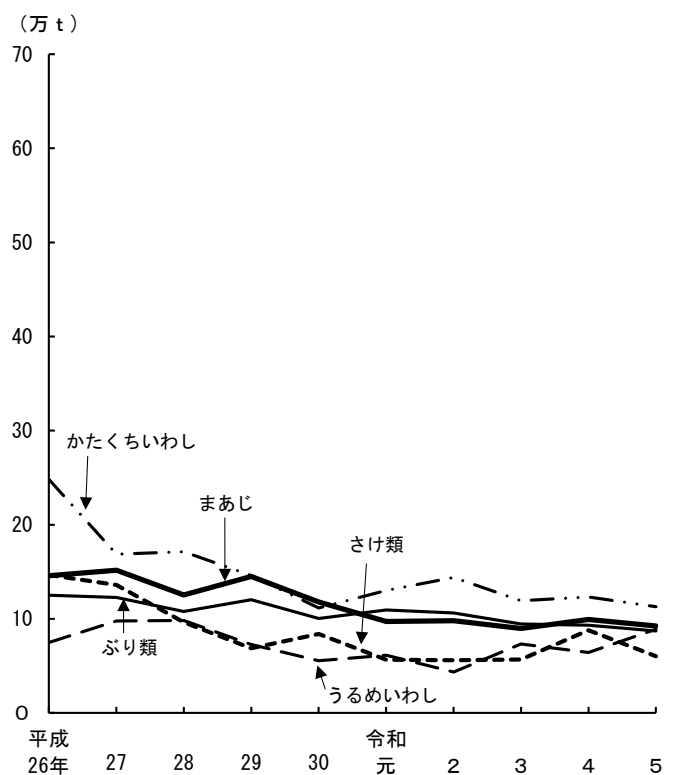


図4 海面漁業主要魚種別漁獲量の推移
(（同左）6位～10位)



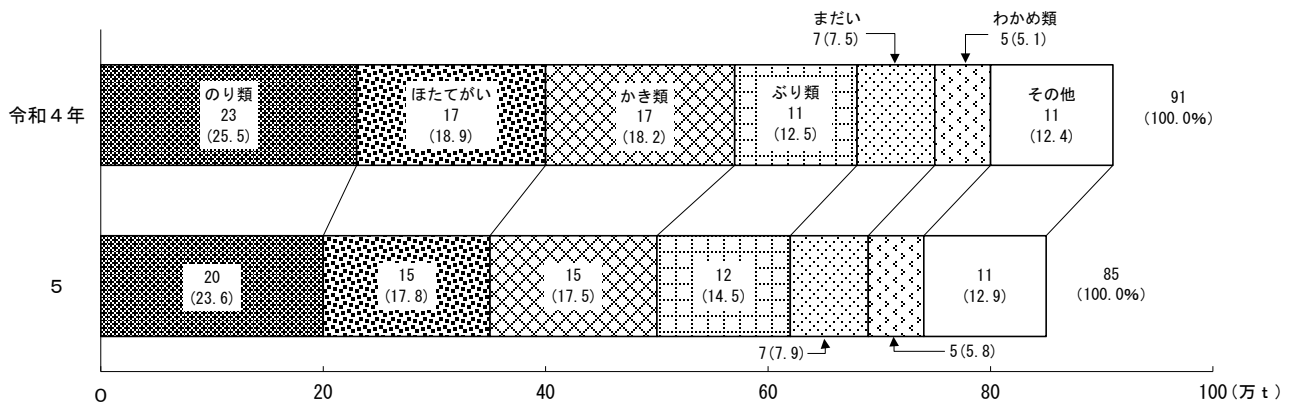
3 海面養殖業

海面養殖業の収穫量は85万1,509 tで、前年に比べ6万330 t（6.6%）減少した。

海面養殖業の魚種のうち、収穫量が前年に比べて増加した主な魚種はぶり類、わかめ類であり、減少した主な魚種は、のり類、ほたてがい、かき類、まだいであった。

この結果、海面養殖業の収穫量に占める主要魚種の割合は、のり類が23.6%、ほたてがい17.8%、かき類が17.5%、ぶり類が14.5%、まだいが7.9%、わかめ類が5.8%となった。

図5 海面養殖業主要魚種別収穫量



(1) 魚類

収穫量は24万3,361 tで、前年に比べ5,933 t（2.5%）増加した。

ア ぶり類

収穫量は12万3,502 tで、前年に比べ9,639 t（8.5%）増加した。

これは、高知県等で増加したためである。

イ まだい

収穫量は6万7,257 tで、前年に比べ831 t（1.2%）減少した。

ウ ぎんざけ

収穫量は2万2,055 tで、前年に比べ1,835 t（9.1%）増加した。

これは、宮城県等で増加したためである。

(2) 貝類

収穫量は30万803 tで、前年に比べ3万7,323 t（11.0%）減少した。

ア ほたてがい

収穫量は15万1,311 tで、前年に比べ2万767 t（12.1%）減少した。

これは、青森県、宮城県等で減少したためである。

イ かき類

収穫量は14万9,064 tで、前年に比べ1万6,526 t（10.0%）減少した。

これは、広島県、宮城県等で減少したためである。

図6 海面養殖業主要魚種別収穫量の推移（魚類）

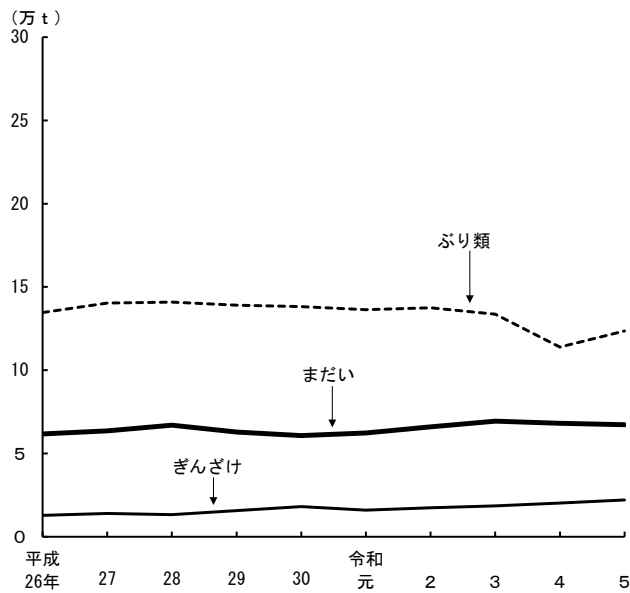
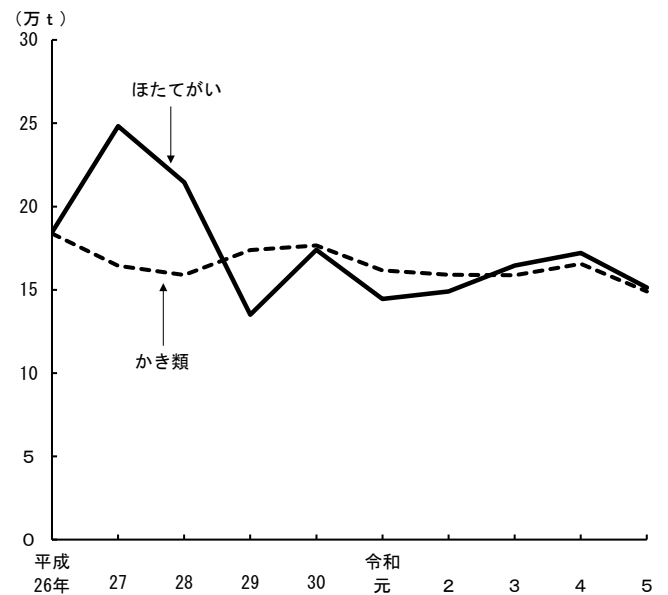


図7 海面養殖業主要魚種別収穫量の推移（貝類）



(3) 海藻類

収穫量は29万8,632 tで、前年に比べ2万6,405 t（8.1%）減少した。

ア のり類（生重量）

収穫量は20万1,011 tで、前年に比べ3万1,479 t（13.5%）減少した。

これは、佐賀県、福岡県等で減少したためである。

イ わかめ類

収穫量は4万9,588 tで、前年に比べ2,659 t（5.7%）増加した。

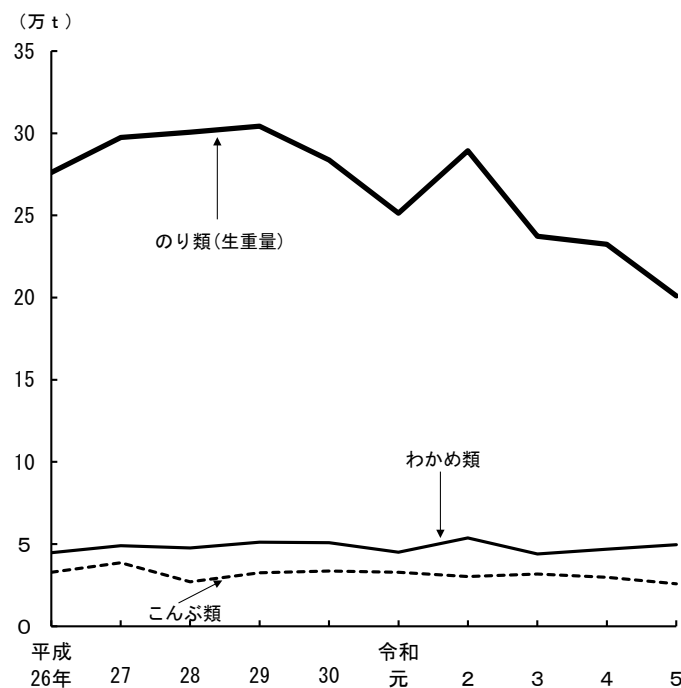
これは、宮城県等で増加したためである。

ウ こんぶ類

収穫量は2万5,741 tで、前年に比べ4,039 t（13.6%）減少した。

これは、岩手県、北海道等で減少したためである。

図8 海面養殖業主要魚種別収穫量の推移（海藻類）



4 内水面漁業

内水面漁業（全国の主要113河川及び24湖沼）の漁獲量は2万1,567 tで、前年に比べ1,045t（4.6%）減少した。

(1) 河川・湖沼別漁獲量

河川における漁獲量は1万1,284 tで、前年に比べ1,498 t（11.7%）減少した。

また、湖沼における漁獲量は1万283 tで、前年に比べ453 t（4.6%）増加した。

(2) 主要魚種別漁獲量

ア しじみ

漁獲量は9,211 tで、前年に比べ898 t（10.8%）増加した。

これは、茨城県、島根県等で増加したためである。

イ さけ類

漁獲量は8,034 tで、前年に比べ1,660 t（17.1%）減少した。

これは、北海道、山形県等で減少したためである。

ウ あゆ

漁獲量は1,697 tで、前年に比べ79 t（4.4%）減少した。

エ わかさぎ

漁獲量は585 tで、前年に比べ90 t（13.3%）減少した。

これは、秋田県、北海道等で減少したためである。

オ ふな

漁獲量は284 tで、前年に比べ55 t（16.2%）減少した。

これは、岡山県、島根県等で減少したためである。

図9 内水面漁業主要魚種別漁獲量

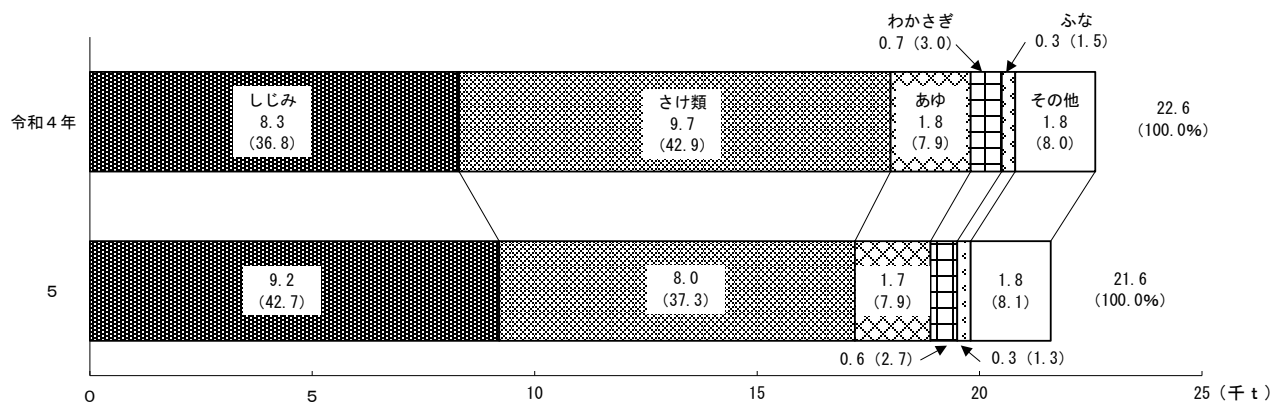
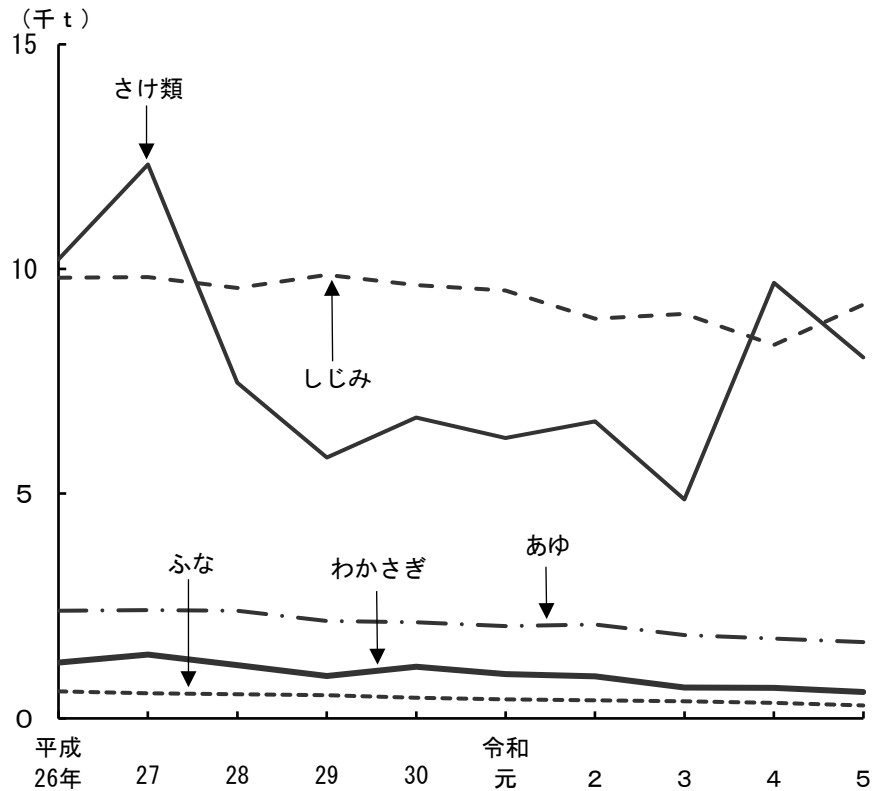


図10 内水面漁業主要魚種別漁獲量の推移



5 内水面養殖業

内水面養殖業の収獲量は3万341 tで、前年に比べ1,162 t (3.7%) 減少した。

(1) うなぎ

収獲量は1万8,341 tで、前年に比べ826 t (4.3%) 減少した。

(2) にじます

収獲量は4,734 tで、前年に比べ272 t (6.1%) 増加した。

これは、静岡県等で増加したためである。

(3) あゆ

収獲量は3,385 tで、前年に比べ298 t (8.1%) 減少した。

これは、愛知県等で減少したためである。

(4) こい

収獲量は1,725 tで、前年に比べ302 t (14.9%) 減少した。

これは、茨城県、群馬県等で減少したためである。

図11 内水面養殖業主要魚種別収穫量

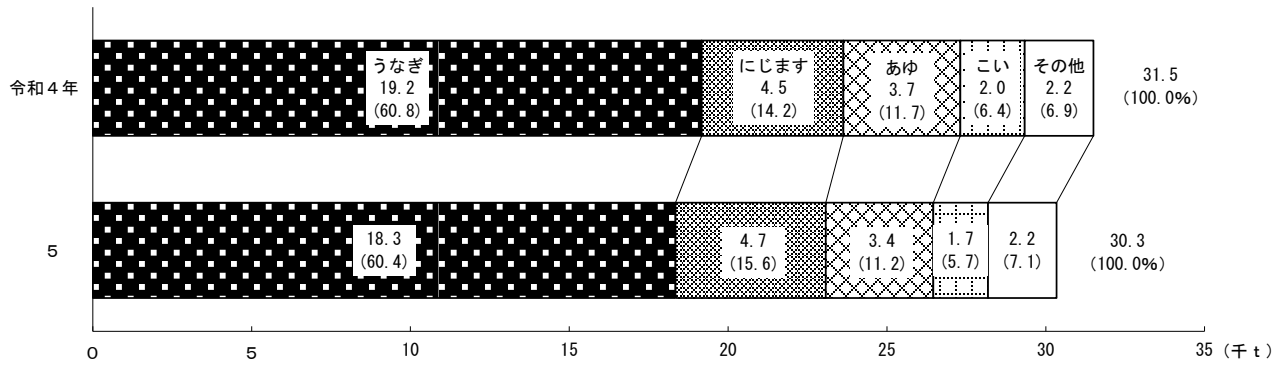
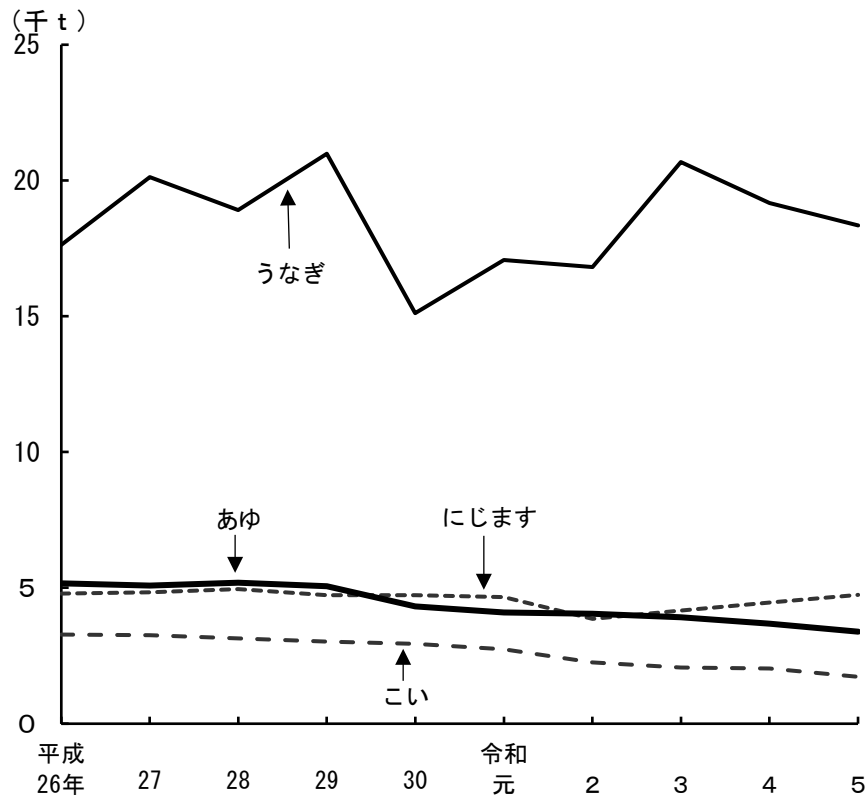


図12 内水面養殖業主要魚種別収穫量の推移



なお、観賞魚販売量について、にしきごいの販売量は257万6,576尾で、前年に比べ14万6,065尾(6.0%)増加した。

これは、岡山県、埼玉県等で増加したためである。